



徴古館報 第41号 令和4年(2022)4月発行



カーマスコット 勝利の女神(イスパノ・スイザ用) 昭和3年(1928) 13代鍋島直泰所用  
令和4年 当財団よりトヨタ博物館へ寄贈

## 令和3年度の展覧会

令和3年度は以下の展覧会を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、来館者には展示室入口での検温や手指の消毒、氏名や連絡先の記帳をお願いしたほか、館内では換気や備品の消毒、受付スタッフの体調管理などを徹底して行いながらの開催となりました。



### 「しってる！知らない？鍋島家の伝来品のいろは」展 (「江戸時代編」7月27日～10月3日／「明治以降編」10月26日～12月26日)

本展では、令和3年5月に新たに佐賀県重要文化財に指定された「鍋島直大像」と「東遊歌風俗歌譜」をはじめとする鍋島家伝来品の中から、隠れた見どころを知っていただきたい品々について、「江戸時代編」「明治以降編」の2期に分けて公開しました。

当館を初めて訪れた方も「しってる」ポイントを見つけながら「知らない」ことを楽しめるように、鍋島家伝来品にまつわる意外なエピソードや共通点、県指定重要文化財になった理由など、様々な視点から見どころを分かりやすくご紹介しました。

「江戸時代編」では翻刻史料集『佐賀藩褒賞録』の発行を記念して原本である「褒賞録」や、同じく藩民への褒賞の記録を記した「善民録」のほか、側近・古川松根が描いた「鍋島直正像」、8代藩主治茂筆の「漢詩書」など初公開の資料も多数展示しました。「明治以降編」では直大像と揃いの栄子夫人像を並べて展示したほか、皇室と鍋島家の関係を示す資料などをご紹介しました。

また、「明治以降編」開催中には武雄市の中学校や三養基郡の小学校のフィールドワークの一環として、県内の子どもたちにも多数ご来館いただきました。



### 「鍋島家の雛祭り」展 (令和4年2月11日～3月21日)

鍋島家の御屋敷を飾ったおひなさまをご紹介する毎年恒例の雛祭り展です。

古写真をもとに、往時の雛祭りにならった長さ6mと5mという二つの大雛壇飾りに、明治から昭和初期の歴代夫人が愛でた雛人形・雛道具類約500点が並びました。さらに特集展示では、男雛や女雛、三人官女や五人囃子などのお人形たちが手にしている御道具の等身大サイズのもの(実際に人が用いるもの)を8点ご紹介しました。

また、雛祭り展期間限定の新商品として徴古館オリジナル丸ぼろを発売しました。栄子夫人の次郎左衛門雛をモデルに、当館学芸員によるイラスト入りの丸ぼろです。大隈重信も愛したと言われる「御菓子司 鶴屋」さんに製造していただきました。



## 令和3年度の新しい取り組み

### 佐賀大学生との連携

展覧会期間中の受付・接客を佐賀大学生3名と一緒に行いました。また、「鍋島家の雛祭り」展においても、学生3名に設営作業体験に参加してもらい、実物の文化財に触れ学ぶ機会を提供することができました。

いずれも佐賀大学でキュレーションを学ぶなどミュージアムに関心をもつ大学生です。今後も地域の学生と連携していきたいと思えます。



### 日祝の開館とTwitterの開設

従来は展覧会期間中の日祝は休館していましたが、令和3年度からは日祝も開館とし(月曜休館)、また、中学生まで入館料を無料とし、より徴古館へご来館いただきやすくなりました。また、従来のお客様はもちろん、より多くの方々に情報をお届けするため、FacebookとInstagramに加えてTwitterアカウントを新設しました。これまで以上に皆様楽しんでいただけるような徴古館の情報をお届けしていきます。



Twitter



Instagram



Facebook

## 徴古館 佐賀県遺産認定へ

令和3年10月27日、地域を象徴する建造物として貴重な資産であるとして、徴古館が「22世紀に残す佐賀県遺産」に認定されました。

徴古館は昭和2年(1927)に佐賀県初の博物館として開館し、肥前関係の古文書・古器物を陳列し今日の県立博物館的な役割を果たしました。大戦の影響で閉館後、平成10年(1998)に再開、同11年に登録博物館となり、鍋島家伝来品を紹介しています。徴古館の建物は、佐賀県内では鉄筋コンクリート造の建築としては初期のものであり、昭和初期の佐賀県を代表する洋風建築の一つとして、平成9年(1997)には有形文化財に登録されました。大戦の影響での閉館など紆余曲折を経ながらも、この佐賀市松原の地で95年にわたり変わりゆく佐賀の町を見守り続けています。

令和4年2月11日、当館で「令和3年度佐賀県遺産認定証授与式」が執り行われ、佐賀県まちづくり課の天本課長より、鍋島館長に認定証が授与されました。鍋島館長からは、さらに徴古館の建物のもつ魅力を広く伝えていきたいとの挨拶がありました。この日は「鍋島家の雛祭り」展の初日であり、授与式に立ち会った来館者から温かい拍手をいただきました。



▲ 認定証授与式の様子



▲ 徴古館(外観)

## 松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会

徴古館が所在する佐賀市松原は、江戸時代に松樹などが植えられた「松原」という緑地があったことに由来します。藩祖鍋島直茂公を祀る日峯社(松原神社)も江戸後期にこの地に建てられました。近代には鍋島直正公の銅像をはじめ佐賀図書館、徴古館や直正公を祀る佐嘉神社などが建てられ、地域の歴史・文化の拠り所としての性格を強めました。

徴古館は私立の博物館ですが、佐嘉神社・松原神社とともに数少ない歴史的建造物として、佐賀市という地域や松原地区の歴史を物語る存在でもあります。そこで平成23年に「松原公園」という徴古館を核とした都市公園が佐賀市により開設されました。松原の歴史性や周辺的美観は、徴古館が佐賀県遺産に認定された理由のひとつでもあります。

そして令和3年11月、ご就任の直後に坂井英隆佐賀市長が神社と徴古館を視察され、「鍋島家の雛祭り」展も公務としてご観覧いただくなど、佐賀市と徴古館(鍋島報効会)の協調関係を続けていただいています。さらにはこれをまちづくりに繋げようと、佐賀市の主宰のもと有識者による「松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会」が令和3年度に設けられました。松原地区周辺の今後のあり方について、歴史の懐古ではなく、地区の歴史が現代の魅力につながるよう、県・市、神社や徴古館、民間団体や地域住民の輪のもとで議論が進められています。

## 13代鍋島直泰様の愛車

### イスパノ・スイザとガラス製マスコット

13代鍋島直泰様(1907-81)の愛車「イスパノ・スイザK6」は、1935年フランス製の高級車です。ボディは直泰様が自らデザインされ、日本の職人が製作・架装を行った唯一無二の車です。通常、イスパノ・スイザの車体先頭には銀色のコウノトリのカーマスコットが取り付けられていますが、直泰様の愛車にはフランスのガラス工芸家ルネ・ラリック作の「勝利の女神」(表紙写真)や「大トンボ」のカーマスコットが付けられていました。これらは走行中に傷が付くのを防ぐため、目的地に到着した後で装着されたそうです。

かつて同車は佐賀県立博物館に寄託されていましたが、平成19年に鍋島家よりトヨタ博物館に寄贈され、現在は同館にて動態保存の上で展示されています。寄贈の際、ガラス製カーマスコットやホイールキャップ等の付属品は佐賀の地に残り、当館の収蔵庫にて保管をしていました。しかし、展示車と分離した状態のままでは本来の文化的価値を十分に伝えることが難いため、この度、付属品もトヨタ博物館に寄贈いたしました。

令和3年12月5日、寄贈に先立ってトヨタ博物館に資料を移送し、当財団の鍋島直晶理事長によりガラス製カーマスコットが展示車に装着されました。久方ぶりに直泰様が目にしていた往時の姿となったイスパノ・スイザは、思わず息をのむ美しさでした。

令和4年3月より、ガラス製カーマスコットは展示車の近くに展示されています。トヨタ博物館を訪れた方々にとって鍋島家や佐賀について知っていただく機会となるだけでなく、同館での展示等を通して得られた新たな知見をいただきながら、当館においても直泰様とイスパノ・スイザの関係を発信していきたいと思えます。



▲「大トンボ」を装着したイスパノ・スイザとトヨタ博物館 布垣館長(左)と鍋島理事長(右)



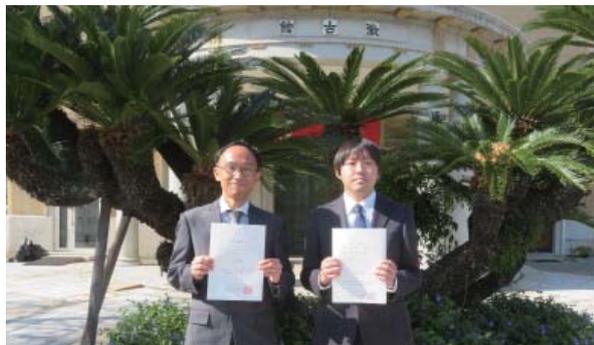
▲ 直泰様とイスパノ・スイザについて

## 研究助成事業

鍋島報効会では平成13年度より、郷土佐賀の研究を奨励し、その成果を地域に還元することを目的に、一般公募による研究費の助成を行っています。

### 【4月5日】 第21回研究助成授与式

令和3年度の助成は3名の方に決定し、徴古館で授与式を執り行いました。授与者・研究テーマは以下のとおりです。丸島 和洋「佐賀藩士深江氏旧蔵文書の復元による「家意識」の検討」／中西 義昌「東肥前から見た戦国期筑紫氏の研究—文献・城郭史研究の観点から—」／野下 俊樹、西田 尚史、小澤 尚平、松尾 大輝、大重 優花「中世後期有明海沿岸地域の学際的研究—佐賀平野の構造的特質—」



▲令和3年度研究者(1名遠方のため授与式欠席)

### 【11月25日】 第20回研究助成報告会

令和2年度に助成を受けた2名の方により、11代鍋島直大夫人・鍋島栄子に関する研究成果の報告がありました。明治期から昭和初期にかけての栄子夫人の社会的活動や国際交流の面からその業績を明らかにされました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑みて、今回は初めてオンラインでの開催となりました。なお、本報告会の様子は当館ホームページよりご覧いただけます。

### 【令和4年1月】 研究報告書第10号発行

第19・20回(令和元・2年度)に助成を受けた6名の研究者による研究報告書 第10号を発行しました(A4版・134ページ)。価格は1,500円で、当会事務所のほか、お電話やメールでもご注文を受け付けています。

### 探究活動コースの新設

より若い世代や子供たちにも郷土へ目を向けてもらえるように研究助成の見直しを行いました。従来の研究助成を「論文コース」として対象を原則30歳代までとしました。また、子供たちの知的探求心を育むことを期待し、佐賀県内の小学校～大学に通う児童・生徒・学生を対象とした「探究活動コース」を新設しました。今年度の授与者・研究テーマは以下のとおりです。(論文コース)高田 祐一「佐賀藩の巨石採石技術の変遷」／石橋 美里「佐賀藩における鷹狩の文化史的研究—伝統の継承をめざして—」／酒井田 千明「柿右衛門窯の御用注文品について」／(探究活動コース)佐賀市少年少女発明クラブ「子どもたちの創造性の開発と、自ら創造する意欲の育成」／佐賀市立鍋島中学校「持続可能な社会を目指して」

## 徴古館のイベント

## プレイエル小音楽会

### 【12月12日】 第26回 プレイエル小音楽会

13代鍋島直泰夫人 紀久子様<sup>きくこ</sup>の婚礼調度の一つであるピアノ「プレイエル」の音色を楽しむ小音楽会を開催しました。演奏は大坪健人さん(佐賀市)。プレイエルのピアノを愛用したショパンのほか、ベートーヴェンやモーツァルト、リストの曲が演奏され、さらに演奏者自身によるトークで曲や作曲者について理解を深めながら聴くことができる演奏会となりました。侯爵鍋島家の伝来品が並ぶ館内にエネルギーあふれる演奏と優しい音色が響き渡り、2回の公演あわせて58名の方々にお楽しみいただきました。なお、今回は佐賀県が支援・展開する文化芸術祭「LiveS Beyond」の協力のもと、初の試みとして動画での配信も行いました。



▲こちらより  
視聴できます



▲プレイエル小音楽会の様子

## 「市報さが」での連載

当館では、平成23年度より佐賀市と連携して「徴古館を活かしたまちづくり推進事業」を行っています。その一環として、令和2年度からは「市報さが」毎月1日号で連載をし、徴古館所蔵の資料を用いて佐賀の歴史について様々なテーマで紹介しています。令和2年度は「佐賀城下あれこれ」、令和3年度は「愛娘への手紙」のテーマで連載を行いました。過去の連載は、当館ホームページで市報掲載内容の増補版としてご覧いただけます。

令和4年度は「鍋島家のお姫さま」のテーマで、佐賀と他の地域とのご縁をつないだお姫さまたちについて、鍋島家伝来資料をひも解きながらご紹介します。また、令和3年度に連載した「愛娘への手紙」を小冊子にまとめ、市内小中学校に配布予定です。

これからも佐賀市との連携を深め、より一層地域の皆様に親しんでいただける博物館を目指したいと思います。

徴古館報 第41号 令和4年(2022)4月発行

公益財団法人 鍋島報効会

〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22

TEL・FAX (0952)23-4200 MAIL info@nabeshima.or.jp

URL https://www.nabeshima.or.jp